

LESSON 1

シニア柴犬の 食事学

人間と同様、犬の世界でも高齢化が問題となっている。

老化は避けられない運命とはいえ、
少しでも健康に長寿を保つことは、
愛犬にとっても、飼い主にとっても幸せなこと。
そのために欠かせない栄養管理術と
かかりやすい病気について知っておこう。



文/牧野容子
監修/坂根弘
(前医師、ブルーバックス・ジャパン(株)学術部部長)

ライフステージに合った 犬の食事が長寿の決め手

愛犬が1日に必要な
エネルギー量を知るには

先祖がオオカミとされることや、
鋭くかつた奥歯をもつことなどか
ら犬は肉食と思われがちだが、人
間と同じ雑食動物である。人間と
ともに暮らしてきた長い歴史のな
かで、肉を食べながらも野菜や穀
類なども摂取し続けてきたことで
消化器官が発達し、雑食化が進ん
だと考えられている。

たとえば犬に肉ばかり与えてい
ると、タンパク質を摂りすぎる一方
でカルシウム不足になるなど、栄養
のバランスが崩れて病気になる恐れ
もある。愛犬が健康で長生きする
ために、改めて彼らの食事につい
て正しい知識を身につけておく必
要がある。

愛犬の食事を考える上でまず大
切なのは、犬のライフステージを把
握することだ。一般的に犬の成長
過程は3つのライフステージに分け
られる。生後1年くらいまでの「発

育期」発育期から高齢期になるま
での「成犬期」、そして「高齢期」。

高齢期は、各犬種の平均寿命の半
分に達した段階からはじまるとさ
れ、柴犬など小・中型犬の場合は
7歳以降が高齢期。各過程で必要
な栄養が違うので、ライフステー
ジに合った適切な食事を与えるこ
とが大切だ。

次に重要なのは、適切な給与量
を守ること。1日に必要なエネ
ルギー量を満足させるように与え
ることだ。その量を導き出す計算式
がある。まず、愛犬の理想体重
医師などに確認の0.75乗※×
70で安静時エネルギー要求量(RE
R)を求め、次にRE Rにそれぞれ
の犬に合った係数(成犬なら1.2
~1.4など)をかける。たとえば
理想体重が6キログラムの犬の場
合は、RE Rが268となり、1
日のエネルギー要求量は約482
キロカロリーとなる。